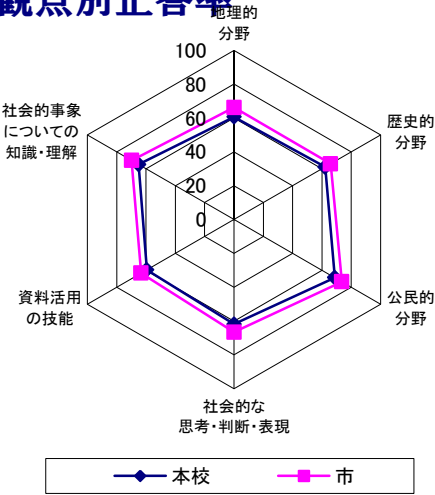


宇都宮市立陽東中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.7	66.2	58.0
	歴史的分野	62.1	65.8	60.8
	公民的分野	68.7	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.8	66.6	58.6
	資料活用技能	59.5	63.4	55.9
	社会的な事象についての知識・理解	65.0	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界の諸地域・ヨーロッパ州の国々の共通点を資料から考察する問題では、校内正答率が84.0%、日本の諸地域・東海地方の農業に関する問題では、校内正答率が76.5%であり、知識の定着が見られる。 ●市の正答率に比べ全般的にやや低めであり、特に世界の諸地域・北アメリカ州の地形についての理解をもとに、断面図を読み取るなど、資料活用技能を用いて答える問題に関して、課題が残る。	・世界の諸地域や日本の諸地域に関する問題では、地域により校内正答率に大きな差がある。各地域の特色を、共通点や違いなどを多角的に捉えさせ、まとめる方法を工夫することで、理解を促したいと思う。 ・基本的な事項の知識・理解は定着していても、それを活用する問題や、資料を読み取り考察する問題に対して、問題解決の力を身に付けられるよう、個別指導を心がけるなど、指導の充実を図りたいと思う。
歴史的分野	○中世の日本に関する問題の中で、都市や農村における自治的なしくみの成立に関する理解をもとに資料を読み取り答える問題では、市の正答率に比べ、本校の正答率が1.2ポイント高く、定着が見られる。 ●近現代の日本に関する質問は正答率が全般的に低めであり、特に日本の産業革命が貿易に与えた影響を資料を読み取って考察する問題では、市の正答率が0.6ポイント下回り、40.2ポイントの正答率だった。	・中世や近世の歴史への興味・関心は高いが、歴史的事象がその時代に与えた影響や時代背景を、資料から読み取ったり、資料をもとに考察することが苦手であると思われる。 ・今後は、資料を多面的・多角的に読み取る力を身に付けていけるよう、資料活用技能表現に関する指導の充実を図りたいと思う。さらに、一つの事象を歴史的背景をもとに考え表現させたり、歴史事象の相互関連をより深く考えさせるなどの指導方法を工夫したいと思う。
公民的分野	○裁判のしくみや新しい権利に関する問題やフランス人権宣言の内容など、知識・理解を問う問題に関しては、どれも校内正答率が80ポイントを上回るなど、知識の定着が見られる。 ●憲法改正の手続きに関する問題では、市の正答率40.9ポイントを上回ったものの、校内正答率が44.5ポイントと低めである。憲法や法律についての資料の活用や表現に課題が残る。	・全般的に知識・理解を問う問題に対しては、正答率が高いが、資料を参考にして具体的事象を自分の言葉で表現したり、思考の手順を問う問題に対しては、正答率が低めである。 ・今後は、資料を読み解いたり活用する力の育成と、資料から読み取った内容を自分の言葉で実際の生活に合わせて表現する力を育成できるよう、指導の充実を図りたいと思う。そのためにも、思考の深まりにつながるような、多種類の表現方法を授業で身に付けさせたいと思う。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの